

三井住友銀行：大きな金融業界における細やかな配慮

北京外国語大学学生代表

見学日時：2023年12月4日（月） 9:00-10:30

見学場所：三井住友銀行

見学概要

三井住友銀行では温かい歓迎を受けた。また私たちへの対応を担当した従業員のほとんどが中国語であいさつをするなど、私たちはとても親しみを感じると同時に三井住友銀行が今回の私たちの訪問をとても重視していることを感じた。

見学ではまず会議室において三井住友銀行のスタッフから三井住友銀行の成り立ち、発展の歩み、中国との密接な関係性及び三井住友銀行の社会的配慮について解説があり、その他に三井住友銀行の中国人スタッフから普段の勤務状況についての紹介もあった。

こうした紹介を通じて私たちは三井住友銀行の企業文化や行員の使命感そして責任感について知ることができたと同時に、社会的責任や世界規模の配慮といった三井住友銀行の博愛の心に強く感銘を受けた。

その後、スタッフの案内の下で銀行窓口の見学をし、現在の銀行内部のネットワークシステムの普及状況や店舗の変化などについて説明を受けた。

見学を終えた後、私たちは行員の皆さんと交流を深めた。三井住友銀行ではすでにオンライン予約を全面的に採用しているとの紹介があったことから、現在の日本での高齢化問題をめぐり高齢者のオンライン予約における課題等の問題について尋ねたところ、現在でも一部の支店ではオフライン予約を受け付けていると共に、高齢者向けに専門のスタッフがオンライン予約について詳細な解説をしているとのことであった。こうした点からは三井住友銀行による社会全体への配慮そして社会的責任感を見て取ることができた。



ご存じですか？

問：三井住友銀行の発展の歩みは？

答：三井住友銀行は「住友家」の「住友銀行」と「三井家」の「さくら銀行」が2001年に合併して誕生した。「三井家」の事業は1673年に三井越後屋呉服店を開業したことに始まり、1683年に金融業を始め、1876年に「さくら銀行」の前身である「三井銀行」を設立した。「住友家」は1590年に開業した銅精錬で成功を収めたことに端を発し、1874年に金融業を始め、1895年に「住友銀行」を設立し、当初は銅製錬事業での成功を足掛かりに両替や融資、送金等幅広く業務を展開していた。

問：三井住友銀行は社会的責任の面でどのような取り組みをしているのか？

答：三井住友銀行は社会的責任に関しこれまでたゆまぬ努力を続けている。三井住友銀行は中国においても多くの大学で奨学金を提供している他、各地の支店もまた様々な「省エネ・環境保護」活動に積極的に取り組むなど、環境対策の精神を実践している。それと同時に三井住友銀行はさらに顧客の ESG/SDGs 面の取り組みを支援することで、企業の持続可能な経済活動を促進また後押ししている。その他、三井住友銀行は各地の慈善活動に積極的に携わり募金を行うなど、社会的弱者への支援に力を尽くしている。



感想

会社全体が大きな金融業界に根を下ろしていても、三井住友銀行は自身の細やかな社会的配慮を継続している。見学全体を通じて最も印象的だったのは三井住友銀行の自身の行員への配慮、社会的責任感そしてグローバルな視野であった。日本の本店は言うまでもなく、中国の現地法人もまた積極的に社会に関わり奨学金を設け、環境保護活動や寄付活動に参加するなど、会社全体として自身の事業の性質を理由に自らを社会的に上の立場としていないという点に最も感銘を受けた。また現在、銀行業においてもインターネット事業の影響で店舗数が激減するとの現象が生まれており、ネットバンキングの高い利便性から、三井住友銀行においても店舗網の見直しといった問題に直面している。こうしたインターネットがもたらす課題にどのように向き合うかについては、現在、各銀行が検討すべき重要な課題になっていると思われる。

